

学校図書館

校長 館岡 靖哲

放課後、校長室からふと窓の外に目をやるともう真っ暗。そして朝夕の涼しさに本格的な秋の訪れを感じます。9月19日(木)の体操部を皮切りに新人体育大会が始まりました。2学年中心の新チームとなって初めての公式戦です。日頃の練習の成果を活かし、悔いの残らない試合を行ってくださることを期待します。また、10月25日(金)には合唱コンクールを予定しています。校内に歌声が響き渡る10月は、私にとって1年間で最も好きな時季です。生徒が主体となり、どのような合唱コンクールを創り上げるのか、とても楽しみです。

ところで、さいたま市教育委員会では、「さいたま市の子どもたちは日本で一番本が好き」の実現を目指し、学校図書館教育を推進しています。具体的には、学校図書館司書の市立小・中学校全校への配置、蔵書の相互貸借システムの構築、家庭、地域との連携による読書活動の推進等の事業を実施しています。私が中学生の時の学校図書館は、本が埃をかぶっていて、図書館内はかび臭く、図書館を利用する生徒はごく一部、等々の良くない思い出しかありません。しかし、保護者や地域の方々が現在の学校図書館を見て驚く場面をよく目にします。学校図書館司書や司書教諭、図書委員の生徒を中心に整備が進められており、清潔で雰囲気も良く、多くの生徒が利用しています。ちなみに蔵書数は12030冊です。実は私も、この夏休みに12冊の本を借りました。学校図書館には、大人が読んでも十分楽しい本が多いことも魅力のひとつです。

せっかくの機会です。この夏休みに私が学校図書館で借りた本の一部を紹介いたします。

『埼玉の三偉人に学ぶ』 堺 正一 著 埼玉新聞社

埼玉県が誇る郷土の偉人「塙 保己一」「渋沢栄一」「荻野吟子」の共通点や、活躍した時代は異なりますが、三偉人の意外な結びつきを知ることができます。半日で読み終わりました。

『宮大工 千年の知恵』 松浦昭次 著 祥伝社

著者は現役の宮大工です。失われつつある宮大工の技術、そして古い建物に込められている職人の技術と心意気が伝わってきます。「雀と大工は軒で泣く」五重塔の美しさの秘密がこの言葉に秘められています。読み始めて、気付いたら日付が変わっていました。

『NHK 気になる言葉』 NHKアナウンス室編 新潮文庫

なぜ風邪は「ひく」のか? 鯖を読むの「鯖(サバ)」の正体 等々の110の質問に対してNHKのアナウンサーが挑みました。時が経つのを忘れてしまうほど楽しい本でした。

さらにもう一冊、『没頭力 「なんかつまらない」を解決する技術』吉田尚記著 太田出版 によると、全米心理学会会長のマーティン・セリグマンが提唱した「ポジティブ心理学」では、人間が幸福を感じるための3要素として「快楽」「意味：有名になりたいとか、誰かの役に立ちたい」というように、人生を有意義なものとする考え方「没頭」が挙げられています。この心理学に従えば「時が経つのを忘れて読書に没頭する」ことは、幸福を感じるキーワードですね。いよいよ読書の秋、生徒の皆さんも、スマートフォンを置いて読書に没頭してみませんか。